



CRIACAO SHINJUKU

Impact Report

インパクトレポート

2024年版

2025年3月発行



CONTENTS

イントロダクション 【P.01～02】

「対談」 新宿区 吉住健一 区長 × クリアソン新宿代表 丸山和夫 01

01 クリアソン新宿が掲げる世界観 【P.03～08】

- 1. クリアソン新宿の経営理念 04
- 2. クリアソン新宿のタグライン 05
- 3. 新宿区とクリアソン新宿 06
- 4. ミッション実現のための価値創造ストーリー 07
- 5. ストーリーを担保するビジネスモデル 08

02 ミッション実現のための歩み 【P.09～16】

- 1. クリアソン新宿のこれまでの歩み 10
- 2. クリアソン新宿の強み 11
- 3. クリアソン新宿と地域を繋げる地域共創室の存在 12
- 4. 独自のパートナー制度 14
- 5. 2024年度のプログラム数とその参加者数 15

03 各テーマの取組みと共創事例 【P.17～35】

- 1. 子どもたちのこころとからだの教育・育成環境の整備 18
- 2. 若者が主体となったコミュニティづくり 20
- 3. 企業/社会が求める人材の創出・マッチング 23
- 4. パートナー企業を通じた地域・社会貢献 25
- 5. 新宿全体での地域活性化 29
- 6. 全ての人に開かれた安心・安全な暮らし 32
- 7. 高齢者の健康増進と地域で支える仕組みづくり 34

04 クリアソン新宿が今後注力する Impact 【P.36～37】

2024年度の振り返りと2025年度の展望 37

Appendix クラブ概要 38

対談



新宿区長

クリアソン新宿代表

吉住 健一 × 丸山 和夫

— インパクトレポートの作成経緯・目的について教えてください。

丸山：新宿区サッカー協会の代表チームとして多くの方々に応援いただく中で、自分たちの活動がどのような未来に繋がっているのかを説明する必要性を感じていました。そのような中、地域パートナーのKPMGさんとともに、クラブの価値創造ストーリーの作成や社会的価値の定量化などに取り組んできたことが今回のインパクトレポートの作成に繋がっています。

クラブとして地域貢献活動は一つのミッションではありますが、クラブの中でどう位置付けられているのかを説明することは難しく、それは日本のスポーツ界全体の課題でもあると感じています。一方、ヨーロッパではリバプールFCのようなトップクラブがインパクトレポートを公表して社会的価値を可視化・定量化し、自らのミッションの達成度合いを説明しています。そこで、クリアソンも地域や社会へも

らたしている価値について、より多くのステークホルダーの賛同を得て協働者を増やしていくためにも、インパクトレポートを公表しようと考えました。

— 新宿区にとって、クリアソンの存在はどのようなものですか？

吉住：最近は新宿のどこへ行ってもクリアソンの話題が上がるようになってきました。クリアソンの成績を見て一喜一憂する人が周りに増えてきて、クリアソンは街の共通の話題と言えるような状態になってきたと感じます。共通の話題が生まれ、“次は勝てる”、“惜しかった”といった話がでてくる。わが街のチームができたことは大きな変化です。

丸山：これは僕らの力だけではなく、地域の人々からサポートいただいて、「クリアソンって何？」と言われていた時から活動を積み重ねて来られたことのお陰です。街の仲間として試合の結果を一緒に楽しめるようになってきたことは本当に喜びです。

吉住：国立競技場で試合を行うとなると当たり前のようにみんな行くようになってきましたしね。町会で声を掛けると200人ぐらい集まるようになりました。それも一回きりではありません。周辺で声を掛け合うようになってきて新たなコミュニティ創出にも繋がっていますよね。

— 新宿区との象徴的な取り組みについて教えてください。

丸山：2020年11月に新宿区とは包括連携協定を結んでいます。数多くの取り組みをしてきたので象徴的な取り組みは甲乙つけ難いですね。例えば、小学校でのかけっこ教室など、運動機会の提供は子どもの地域課題としてあり、それに対してアプローチすることは意義があると考えています。

また、最近“面”の取り組みが広がってきたと感じます。例えば、地域の町会・商店街と一緒に、子どもたちへ職業体験のような機会を提供できるようになってきたことです。更に嬉しいのは、そういった様々な取り組みを通じて、街での挨拶やコミュニケーションが生まれ、クリアソンがハブとなり新たな繋がりが創出されることです。

対談

新宿区長 吉住健一 × クリアソン新宿代表 丸山和夫



—新宿区とクリアソンで今後一緒に取り組みたいことを教えてください。

丸山：今年4月より新宿区と連携し、新小学1年生がくりあにゃんのイラストが入ったのランドセルカバーと帽子を使用してくれることになっています。子ども以外にも、高齢者、外国籍の方、障がいのある方に関する課題など、色々な地域課題があるため、地道に一つ一つ積み重ねて自分たちができることに引き続きトライしていきたい。それが街の盛り上がりにつながるようにしていきたい。リーグのカテゴリーを上げていき、新宿の方々誇りに思ってくれるクラブになりたいです。

吉住：新宿区の立場としては、クリアソンの選手・スタッフと新宿区民の信頼関係が醸成されてきていると感じています。子ども向けの活動も、高齢者向けの活動も、クリアソンが関わる活動であれば何の疑いもなく多くの方に来てもらっている。一方、新宿区の課題の一つとして、街を支える仕事が、ボランティアはもちろん有償の仕事でも担い手が不足してきている。丸山代表の話を以前聞いて良いと思ったのが、選手が引退した後のセカンドキャリアについてもクラブとしてしっかり考えていて、そこが新宿区の課題解決にも繋がっていくと良いと思っています。

—新宿区として思い描かれているビジョンを教えてください。

吉住：この街にいて楽しいと思ってもらえることが一番と考えています。何が楽しいのか、という話になった際に、一緒に学習する、一緒にスポーツをする仲間がいると楽しいし、継続できる。そこを区民に親しまれているクリアソンに一翼を担っていただき、新宿で過ごすことが楽しいと思ってもらえるようにしたいです。

丸山：新宿を楽しんでもらうというのは大事なキーワードですね。苦しい時は諦めず、良い時は喜び、クラブとしてのそんな姿を新宿の人たちに見てもらい、子どもやいろいろな世代へ響く勇気を与えられるような存在になりたいですね。社会に勇気や希望を与えているスポーツも多くありますが、僕らも一つの象徴になれるように今後の活動も頑張っていきたいです。

—インパクトレポートを今後どのように活用していきたいですか？

丸山：クリアソンの情報が部分的になってしまっていたところを、このレポートによって、ある種クリアソンの取扱説明書になるといい。こんなことも一緒にできるのだと知ってもらいたい。サッカー教室だけでなく、なんならお祭りで御神輿だって担ぎます。いろいろな活躍の仕方があると思っていますし、新宿に愛着を持ってもらえるようなコンテンツになりたいです！



CHAPTER

01

クリアソン新宿が掲げる 世界観



1 クリアソン新宿の経営理念

Mission
【理念】

スポーツの価値を通じて、
真の豊かさを創造し続ける存在でありたい。

Vision
【ビジョン】

スポーツの価値を通じて、様々な世界を繋げ、
誰もが豊かさの体現者となれる世界に。

Value
【価値観】

変わらない価値に、創造を。

MISSION / VISION 実現のために重要視している3つの柱

リーダーシップ

イキイキ

ビジネス

2 クリアソン新宿のタグライン

誰もが豊かさを感じられる世界へ。

日々の歩みの中で、世界中の人々が、豊かさを感じられる世界。

豊かさとは何か。

それは心の奥底から感じる「自らを動かす前向きな力」。

自分らしく、やりたいことを、諦めない、どこか弾む高揚感。

そのために、

他者との違いを認め、お互いを尊重しあう。

自らの強みを知り、それを集団の力に変える。

そして、人と支えあう。

特別なやり方があるわけじゃない、当たり前を一つ一つ。

毎日の生活で、こういった価値観を信じられる人が増えれば、人は、諦めることに抗える。もっと多様な夢を描ける。

我々は、サッカーの力で、人の心を動かし、

誰もが豊かさを感じられる世界の実現に向けて、走っていく。



Enrich the World.

3 新宿区とクリアソン新宿

2020年11月24日、新宿区と包括連携協定を締結。新宿区が締結する初めてのスポーツ団体となりました。
スポーツ振興だけにとどまらず、地域社会の発展、多文化共生の推進などで連携中。

ホームタウン・新宿区は、多様性が豊かなまちである一方「課題先進地域」とも言われています。サッカー、スポーツの力を使って新宿の課題を解決することは、世界の課題を解決することにもつながっているはずです。

私たちは価値提供の対象を大きく四つに分類し、地域の課題を解決するプロジェクトを企画、実行しています。また、サッカークラブが新宿というまちにもたらした社会的な価値を分析。日々、活動のアップデートを行なっています。

WEB <https://criacao.co.jp/soccerclub/hometown/>

新宿区との主な連携内容

1. スポーツ振興に関すること
2. 学校と地域との連携に関すること
3. 多文化共生に関すること
4. 健康寿命の延伸・健康づくりに関すること
5. 観光・産業振興や地域商店街の活性化に関すること
6. その他相互に連携し、協力することが必要と認められる事項

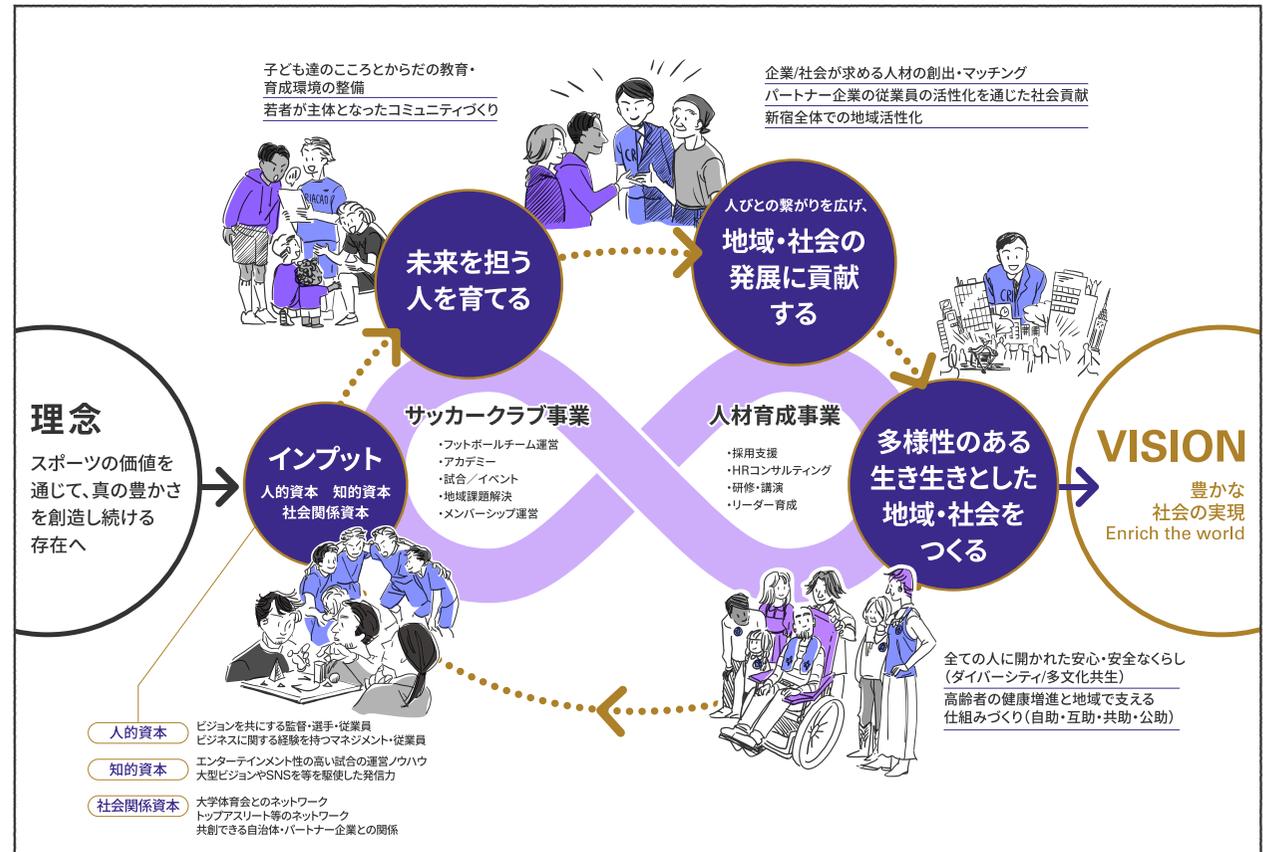


4 ミッション実現のための価値創造ストーリー

クリアソンの価値創造ストーリー

“クリアソンの価値創造ストーリー”では「クリアソンはどんな価値の創出を目指しているのか」を示しています。クリアソンの強みである、ビジョンを共にする選手・スタッフなどの「人材」と、サッカークラブ運営だけに留まらないその豊富な「ノウハウ」や地域の方々との強固な「ネットワーク」を活用しながら、7つの価値を地域や社会に対して創出していきます。最初はクリアソンが主体となって人と人をつなぎ、人を育て、地域を活性化していきながら、誰一人取り残さない多様性のある社会が実現されている豊かな社会の実現がストーリーのゴールです。

なお、この絵にはサッカーの要素はほとんどなく、クリアソンのメンバーも全面には出ていません。クリアソンは単なるサッカークラブにとどまらず、地域の方々をつなぐ“ハブ”であり、関わる人たちが主役となって一緒に地域を創っていくことを表現しています。



社会価値テーマ	① 子どもたちのこころとからだの教育・育成環境の整備	② 若者が主体となったコミュニティづくり(自治意識の向上)	③ 企業/社会が求める人材の創出・マッチング	④ パートナー企業の従業員の活性化を通じた社会貢献	⑤ 新宿全体での地域活性化	⑥ 全ての人に開かれた安心・安全な暮らし(ダイバーシティ/多文化共生)	⑦ 高齢者の健康増進と地域で支える仕組みづくり(自助・互助・共助・公助)
主な受益者	子ども、自治体	若者、自治体	企業、学生	パートナー企業、従業員	自治体、地元企業	多様性をもつ人々、自治体	高齢者、自治体

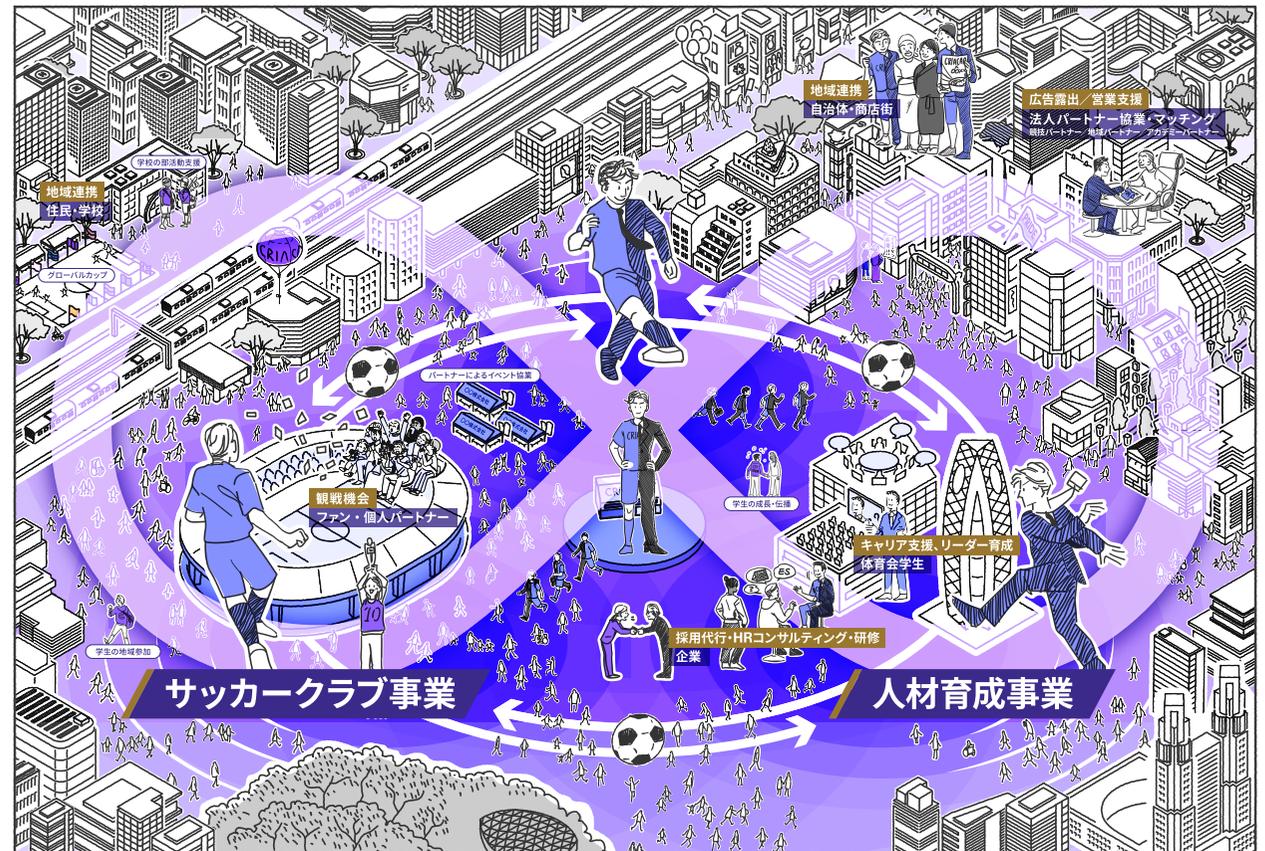
「03 | 各テーマの取組みと共創事例」にて詳細説明 ▶

5 ストーリーを担保するビジネスモデル

“クリアソンのビジネスモデル”は、「クリアソンが
どんなことをしているか」を示しています。

クリアソンは、サッカークラブ事業（フットボールチ
ーム運営、アカデミー、試合／イベント、地域課題解決、
メンバーシップ運営など）と人材育成事業（採用支援、
HRコンサルティング、研修・講演、リーダー育成など）
を展開しています。2つの事業が相乗効果を生み出し
ながら、地域の学校・商店街との連携、パートナー企
業との協業などに繋がっていき、新宿の賑わいを創出
しています。

このビジネスモデルにある絵は新宿区の特徴的な建
物や街並みをベースとしています。特徴は、選手がサッ
カーとビジネスの両方を実施している点です。半分ユ
ニフォーム、半分スーツをまとったクリアソン新宿の選
手がピッチを飛び出し、新宿で活動する姿が描かれて
います。





CHAPTER

02

ミッション実現の
ための歩み

1 クリアソン新宿のこれまでの歩み



2 クリアソン新宿の強み



ビジョンをともに体現して
活躍する監督・選手

01

05



理念に共感した
パートナー企業との協業

02

04



多様なバックグラウンドを
持った役員・社員

03



地域、競技団体との
多様な繋がり・ネットワーク



地域貢献への意識の高い
ファン・パートナー

3 クリアソン新宿と地域を繋げる地域共創室の存在

地域共創室の目指すべきところ

将来的にはクリアソン新宿を介さなくても、新宿の課題や地域活動に向き合い、自主的に取り組む人が増えていること

地域共創室の特徴・強み

1. 活動の継続性

単発ではなく、持続可能性を考えた取り組み

2. 活動の深さ

目標達成のための仕組みづくりへの取り組み

例) 将来的な財団設立などを見据え、2025シーズンにおいては地域活動のボランティアを組織化することを検討

3. 選手を中心とした組織

クリアソンのビジョンを理解した選手が中心となり、地域のファン・団体（町会、商店会、協会など）・パートナー企業とコミュニケーションを行うことで、クリアソンと地域の架け橋となっている

誰もが楽しめる観戦環境づくり

学校法人日本教育財団首都医校と連携し、作業療法士学科が車いす利用者の観戦をサポート。



クリアソンファミリア

主にホームゲームで活動するボランティアコミュニティ。2025シーズンは地域活動にも広げ、法人パートナーや地域の方々との課題や活動に向き合う。



3 クリアソン新宿と地域を繋げる地域共創室の存在



地域共創室は、2020年に岩舘直選手が浦和レッズより移籍してきたことがきっかけで設立されました。

地域共創室は、子ども、若者、高齢者、多文化共生などのテーマに対して、サッカーという手段で新宿がより良い街になり、繋がりがコミュニティが生まれていくことを目指しています。本レポートでは、地域共創室はどのような活動をして、岩舘選手はどのような想いを持っているのか、インタビューを行いました。

地域共創室 岩舘直選手インタビュー

地域共創室の活動

当初はコロナ禍で思うような活動ができませんでしたが、商店街や飲食店の方にインタビューをさせてもらい、その街や商店街の良さを聞かせてもらいました。コロナが終息し地域へ挨拶回りを始めた際に、商店街の方々にいろいろな人を繋いでもらって活動の幅が広がりました。今は、新宿区の子どもや高齢者、若者、外国人が抱えている課題を解消するために多様なステークホルダーと様々な活動をしています。

地域貢献活動に興味を持った理由

浦和レッズにいたときに、レッズが街全体を盛り上げているのを見て、サッカーが持っている力を肌で感じました。一方、レッズはJ1のトップチームであるため、競技の結果を最優先に求められ、選手がピッチ以外で地域に還元できる機会は少なかったです。選手がクラブと一体となって地域貢献をすることで、サッカークラブの存在意義はより高くなるのではと考えるようになりました。

地域共創室の提供価値

必ずしもサッカーが好きとは限らない人にとっては、地域共創室がクラブとして関わる「顔」になります。そのため、地域共創室は競技とは関係ないところでもクラブのビジョンを伝える重要な機能を果たしています。

選手が主体的に地域の活動に参加しビジョンを語ると、クラブが体現していこうとする価値が伝わりやすくなるため、クラブの信頼度が上がることになります。また、サッカーしかしてこなかった選手にとっては、社会経験やコミュニケーション力を伸ばす良い機会になっていて、成長も感じます。特に、新加入選手の成長は顕著です。

選手が地域貢献活動をする事の難しさ

選手のコンディショニングへの影響はゼロではないので、業務量のバランスには気を付ける必要があります。また、個々の想いや関心がどこにあるかを聞き、より主体的にモチベーション高く活動してもらえよう訪問先の割り当ても考えるようにしています。

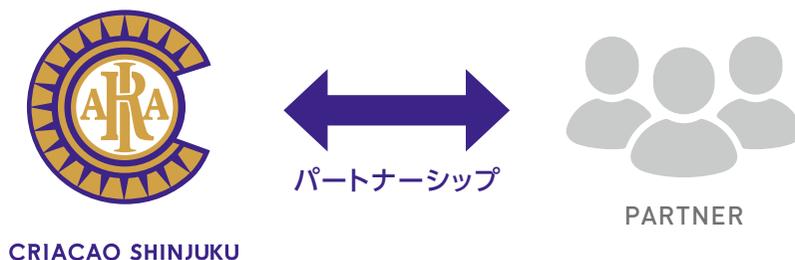
今後の地域共創室の在り方

近い将来の話では、まずは目の前でクリアソンを必要としている方に対して期待に応えることが重要です。長期的には、クリアソンが世界一のサッカークラブを目指す中で、地域共創室は何をすべきか、どうあるべきかという問いから逆算して、クリアソンでなければできないことを見定めて活動しています。

4 独自のパートナー制度

クリアソン新宿とのパートナーシップでともに創り出す価値

クリアソン新宿は「スポンサー」という呼称を用いず、広告・露出効果だけではなく、価値の提供・連携・創造を通じ、互いの理念・豊かさの実現に向けてともに歩む「パートナー」としての在り方を追求しています。



パートナーシップ構成

理念・ビジョンに共感いただき、ともに拡げるパートナーである「ビジョンパートナー」をベースとし、より特化した領域での共創を目的として「競技」「地域」「アカデミー」の種別を設けています。

ビジョンパートナー

「Enrich the world.」に共感、ともに拡げていくパートナー。Criacao Shinjukuのあらゆる活動を対象とする。

競技パートナー

サッカーチームの競技活動およびホームゲームの開催を通じ、共に活動するパートナー。

地域パートナー

新宿区を中心にスポーツを基点とした地域振興を目的に共に活動するパートナー。

アカデミーパートナー

クリアソン新宿のU-18, U-15の活動を通じ、豊かな人生を歩める子どもたちを育成するパートナー。

[WEB](https://criacao.co.jp/soccerclub/partnerguide/) <https://criacao.co.jp/soccerclub/partnerguide/>

事例 01 日本ハウズイング株式会社

試合会場でのフードドライブ企画



- ホームゲームの冠協賛企画として、フードドライブを実施。来場者に寄付いただいた約530個の食品を新宿区内外の子ども食堂等へ寄付。
- 来場者のみならず、社内のフードドライブ活動の啓蒙にも寄与。

事例 02 新和环境株式会社

小学生招待企画（夢パス）の提供



- クリアソン新宿のホームゲームを小学生以下の子どもたちが無料で観戦できる夢パスを新和环境株式会社の協賛で提供。
- 最後まで諦めず戦い抜くクリアソン新宿を観戦する機会を増やすことで、地域の子どもたちに夢を追いかけるすばらしさに触れていただいている。

5 2024年度のプログラム数とその参加者数



子ども

活動内容

- クリアソン新宿ランニングスクール (花園小、富久小)
- 柏木小部活動指導受託
- フットボールパーク (落合中央公園での無料スクール・週1)
- 少年チーム練習巡回
- しんじゅくこどもまつり など

活動内容の実施総計

140回

参加者総計

約 6,890人



若者

活動内容

- クラーク記念国際高校技術指導 (サッカー、フィジカル)
- 5大学合同クリアソン新宿 5daysインターンシップ (目白大学、目白大学短期大学部、工学院大学、桜美林大学、東京富士大学)
- 新宿高校より探究学習の受け入れ
- 新宿高校、海城中学・高校サッカー部などの練習参加 など

活動内容の実施総計

64回

参加者総計

約 1,650人



高齢者

活動内容

- 新宿いきいきプロジェクト
- ① サッカーボウリング実施 (2ヶ月に1回程度訪問)
 - ・ 戸山シニア活動館
 - ・ 西新宿シニア活動館
 - ・ 有料老人ホーム ソナーレ目白御留山
 - ・ グループホーム あんじゅうむ久保
 - ・ 介護付き有料老人ホーム グランヴィ神楽坂
 - ・ 特別養護老人ホーム 原町ホーム
- ② サッカーボウリング大会 (年1回) など

活動内容の実施総計

35回

参加者総計

約 470人

5 2024年度のプログラム数とその参加者数



活動内容

- 新宿エイサーまつり
- 染の小道
- 神楽坂まつり
- 四谷大好き祭り
- 大久保まつり
- 新宿かしわまつり など

活動内容の実施総計

36回

参加者総計

約 3,660人



活動内容

- 能登半島地震募金活動
- 高島屋走り方教室
- 歌舞伎町 FOOTBALL LIVE
- トラックフェスタ TOKYO など

活動内容の実施総計

10回

参加者総計

約 1,580人



活動内容

- 新宿いきいき体操普及啓発イベント
- 交通安全呼び掛け隊
- 新宿区教員向け走り方教室
- 新宿スポレク
- 大新宿区まつりふれあいフェスタ

活動内容の実施総計

8回

参加者総計

約 360人



活動内容

- 新宿未来創造会議
- 新宿東口献血ルーム
- パラスポーツレクリエーションひろば など

活動内容の実施総計

12回

参加者総計

約 430人



CHAPTER

03

各テーマの取組みと
共創事例

1 子どもたちのこころとからだの教育・育成環境の整備

2024シーズンサマリー

クリアソン新宿はサッカーを通じて、子どもたちのこころとからだの成長を支援してまいりました。来シーズンからは「こども室」を創設し、子どもの運動機会を整備することや、アカデミー活動等を通じて、子どもたちのGrit（やり抜く力）などの非認知能力や自己肯定感を高めるような取り組みをしてまいります。

実施活動インパクトの例

夢パスでの来場者数

(国立競技場2試合除く)

1,234人

子ども向けプログラム

開催回数

140回

参加者総計

約**6,890**人

アカデミー所属

75人

[WEB https://criacao.co.jp/soccerclub/academy-2/](https://criacao.co.jp/soccerclub/academy-2/)

[WEB https://criacao.co.jp/soccerclub/festival/](https://criacao.co.jp/soccerclub/festival/)

1 子どもたちのこころとからだの教育・育成環境の整備

活動

直接の結果～短期アウトカム

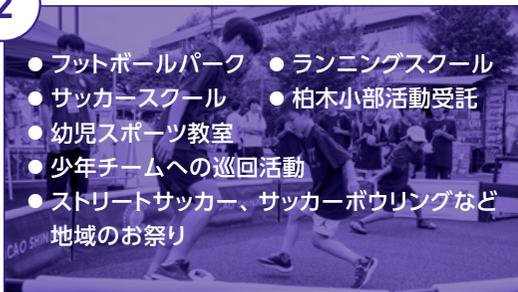
中期～長期アウトカム

1



- 子どもたちが試合観戦・イベントへ参加する機会を提供する（夢パスでの来場者数：1,234人、みんなのPitch!、かけっこ教室など試合会場企画申込人数：1,258人）
- サッカー（スポーツ）への興味が増し、定期的に運動する子どもが増える

2



- 子どもたちの運動機会、好き・やりたいの出会いの場を提供する（プログラム実施回数：140回、子ども向けプログラム参加者総数：約6,890人）
- 子どもたちの挑戦、成長意欲が向上する

3



- アカデミーを通じた人としての成長機会を提供する
- サッカーに自発的にコミットすることで、セルフリーダーシップが育まれる



新宿区の子どもの
運動実施率の向上



参加した子どもの
非認知能力の向上

2 若者が主体となったコミュニティづくり（自治意識の向上）

2024シーズンサマリー

高校や大学との産学連携や大学生のインターンシップ機会の提供などを通じて、新宿に在住・在学する若者が新宿の課題について考えるとともに、自分を見つめ直し、キャリアやリーダーシップに対して向き合う機会を提供しました。

リーダーシップやキャリアに対する意識を高める環境を提供するとともに、若者を中心にコミュニティに向き合う機会も提供しました。

実施活動インパクトの例

若者向けプログラム

開催回数

64回

参加者総計

約 1,650人

2 若者が主体となったコミュニティづくり（自治意識の向上）

活動

1



- 試合観戦やイベントを通じた交流機会を創出する
(例：部活への練習参加など)
- サッカーを通じた仲間が増える
(例：大学サークルや研究室での試合会場ブース出展、試合会場ボランティア参加 など)

2



- 地域の自治体や商店街、教育機関との連携・協力関係が構築される
(例：桜美林大学 根津ゼミとの連携／首都医校 作業療法学科 安心・安全にサッカー観戦できる環境づくり)
- 社会との接点を持つことによる、自己認知能力が向上する
(例：宝塚大学 選手2次元キャラ化プロジェクト)

3



- クラブを通じた自己実現の機会を提供する
(例：5大学合同 5daysインターンシップ2024)
- 社会との接点を持つことによる、自己認知能力が向上する

直接の結果～短期アウトカム

中期～長期アウトカム

仲間との地域での
日常的な交流が増す
新たなコミュニティが
形成される

自身のキャリアへの
意識の向上
自分らしい
リーダーシップの理解

「5Days インターン」参加者インタビュー



工学院大学 先進工学部 生命科学科

角脇 光季 さん

2024年の5大学インターンに参加（参加当時大学2年生）。工学院の Science Create Project の支部長としても活躍。

インターンに参加するきっかけや期待していたことは？

SCP^{*1}の活動の一環でクリアソンを知りました。SCPのスタッフとして「しんじゅくこどもまつり」に参加した際に、クリアソン新宿の方々の人柄の良さを感じるとともに、活気あふれ楽しそうに活動されているのを間近に見て、どうしたらこのように働けるのだろうと驚きました。そんな中、偶然インターンの募集を知り、応募して参加させていただきました。

期待していたことは、具体的なイベントの運営・進行方法に加えて、自分の今後の進路の中で大事な選択が必要になった際に、何が自分にとって大切なのか、そういった決断する際の軸が見つけれればと考えていました。

インターンを通じて学んだ自分の軸は？

「自分が好きなことは何なのか?」「なぜそれが好きなのか?」そういったことを突き詰めて考えることの重要性をクリアソン新宿の方々から学びました。クリアソン新宿の選手は午前はサッカー、午後は地域貢献に関わられている方が多く、サッカーだけに専念している

※1 工学院大学の学生プロジェクト、Science Create Projectの略称。

子どもたちを対象に科学実験や工作を行う事で、子供たちに科学の面白さを知り、興味を持ってもらう事を目的として日々活動している。

状況ではないものの、自分の中に明確な軸があるからこそ何に取り組んでいる時も胸を張っていられるという話が印象に残っています。自分自身の軸のようなものが見えてきたのは、そういった選手たちの言動が大きく影響していると思っています。

5日間という短い期間ではありましたが、自分の価値観とは異なった他大学の学生と一緒に参加したことで、自分が持っていない視点や観点を知ることができたことも、貴重な経験だと感じています。

今後に活かしたいことは？

インターンを通じて、現時点の自分の軸が確立できたと感じていて、いろいろなことに対し、「なぜ?」を突き詰めて、これからの自分の人生で様々な選択をしなければならぬ中で、活かしていきたい。

地域貢献プログラムを通じて、今まで知らなかった新宿の様々な魅力を感じることができたので、機会があれば引き続き新宿という街に貢献できるような取り組みに参加したいです。また、自分が住んでいる地域においても同様に、地域の人と交流する機会がもっとあれば、是非何か還元したいなと思っています。



3 企業 / 社会が求める人材の創出・マッチング

2024シーズンサマリー

体育会学生には、リーダーシップセミナーやマネジメントセミナー、キャリア面談等を通じて、「自分のことを知る」と「企業や業界、ビジネスを知る」とこの機会を提供し、社会で活躍できる人材の育成に寄与しました。

また、企業には採用やHRBP制度設計に対するコンサルティングを実施し、自分らしいリーダーシップを持つ人材の採用と育成について支援しました。

実施活動インパクトの例

学生

サービス利用人数

約 **1,200**人

キャリア面談数

719人

イベント数

98回

企業

採用決定数

62人

取引先

約 **120**社



3 企業 / 社会が求める人材の創出・マッチング

活動

1



直接の結果～短期アウトカム

- 学生の価値観・能力に合った企業、企業のターゲットに合った人材といった、双方のニーズに沿ったマッチングの機会を提供する（サービス利用人数：約1,200人、キャリア面談数：719人）
- 各大学の部活動を訪問し、組織づくり、キャリア選択のセミナーを実施する（イベント実施回数：98回）
- 心理的安全性の重要性、自分らしさを発揮する重要性が浸透する



中期～長期アウトカム

自分らしい
リーダーシップを発揮する
人材の育成

2



- 企業の魅力が伝わるイベントを設計する
- 企業に対し採用に関するコンサルティングを提供する
- 深く濃い出会いの場を創出する（採用決定数：62人、取引先：約120社）



自分らしい
リーダーシップを発揮する
人材の採用と育成を支援し、
会社の持続的成長に寄与する

4 パートナー企業を通じた地域・社会貢献

2024シーズンサマリー

2024シーズンは国立競技場でのホームゲームを2回実施し、多くのパートナー企業の方々に観戦をしていただき、イキイキする機会を提供できました。

また、パートナー企業からの人材受け入れに取り組みました。派遣側も受け入れ側も刺激を受け、成長し合う経験をしています。

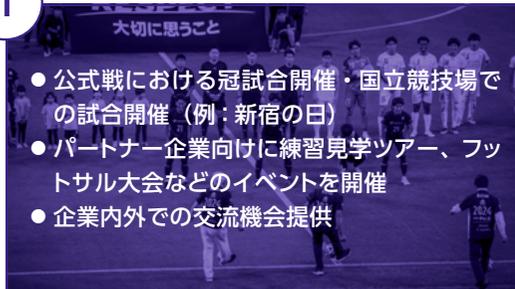
例年実施している研修や講演の開催に加え、新宿区立花園小学校の総合学習における職場体験では、多くのパートナー企業にご協力いただき、地域貢献に取り組むことができました。

WEB <https://criacao.co.jp/soccerclub/event-report/post-17134/>

4 パートナー企業を通じた地域・社会貢献

活動

1



- 公式戦における冠試合開催・国立競技場での試合開催（例：新宿の日）
- パートナー企業向けに練習見学ツアー、フットサル大会などのイベントを開催
- 企業内外での交流機会提供



直接の結果～短期アウトカム

- 従業員が試合観戦・イベントへ参加する機会を提供する

2



- パートナー企業からの人材受け入れ



- 試合会場や地域活動へのボランティア参加、出向などを通して、クリアソン新宿のあり方、やり方に深く触れる機会を提供する

3



- パートナー企業向けに、研修や講演、採用支援、コンサルティングを実施
- パートナー企業合同での新入社員研修の開催



- 従業員が研修・イベントへ参加する機会を提供する
- 普段の業務において活かせる気づきが得られる

中期～長期アウトカム



従業員同士の
コミュニケーションの活発化



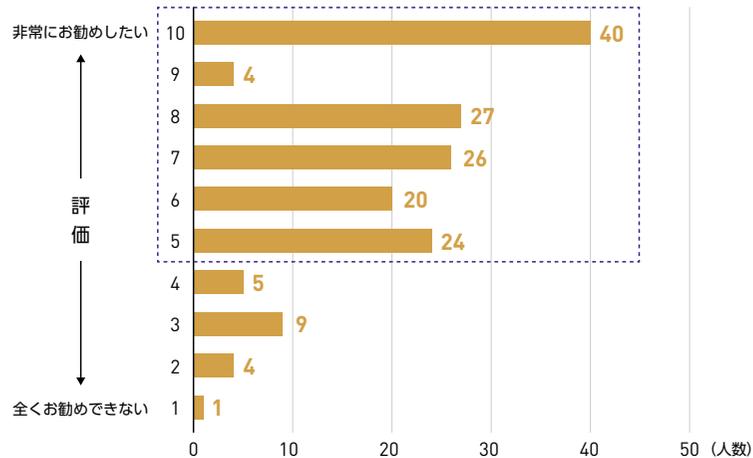
会社への帰属意識や誇り、
仕事へのモチベーション向上

4 パートナー企業を通じた地域・社会貢献

2024年6月7日「新宿の日2024」（国立競技場開催）JFL第11節の試合において、来場されたパートナー企業関係者「10代・20代」以上男女160名にアンケート調査を実施した結果を一部抜粋。

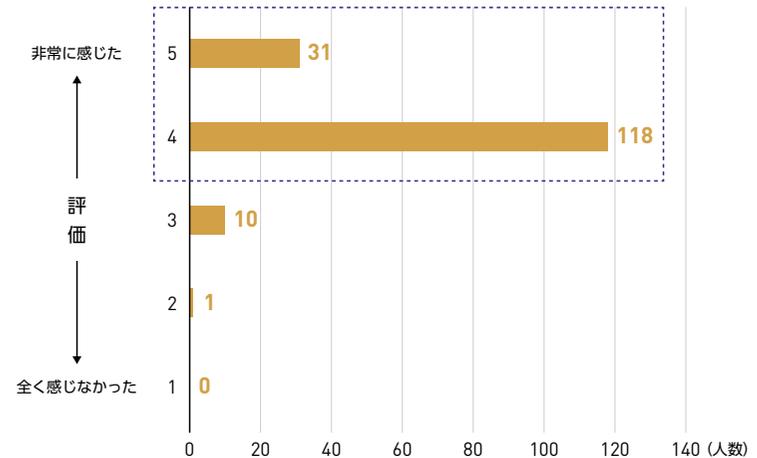
「5」以上の評価の人が約**90%**

クリアソン新宿の試合を周りの人にお勧めしたいと思いますか？



「試合観戦を通じてとても元気・活力を感じた。日タイキイキと過ごすことが出来そう」、「試合観戦を通じて、元気・活力を感じた」の評価が「4」以上の人が約**90%**

クリアソン新宿はスポーツの価値を通じて真の豊かさを創造し続けることを理念として活動しています。試合観戦、スタジアム体験を通じて、皆様が日々の生活（例：仕事、学業、家事・育児）をイキイキと過ごせるような元気・活力を感じて頂くことはできましたでしょうか？



4 パートナー企業を通じた地域・社会貢献

SOMP0ホールディングス株式会社



SOMP0ホールディングス株式会社
人事部 課長代理 吉岡 賢俊 様
人事部 主任 恒松 貴大 様

クリアソン新宿のパートナーになった経緯

一番のポイントは、クリアソンが掲げているビジョンや、“**Enrich the world**”というタグラインに共感したことです。弊社も「“安心・安全・健康”であふれる未来へ」というパーパスを掲げていますが、パートナーシップを通じて「新宿から日本全国へ、世界へ」、ストーリーを共に歩んでいきたいと、最初の出会いで感じました。

人材交流の狙い

この人材交流は、2023年より弊社で始めた「SOMP0他流試合チャレンジ」の一環で行っているものです。弊社ではSOMP0のパーパスの具現化に向けて、これまでの既存の変えるべき企業文化・価値観から脱却し、さらなるイノベーションを起こせる風土を醸成する必要があります。そのため、クリアソンでの取り組みを行った社員が得た新たな経験・視点や、外から見た自社に対する気づきなどを還元して、他の社員に様々な刺激を与えて欲しいと考えています。

今後クリアソン新宿と一緒に取り組みたいこと

人材交流については、弊社だけではなくクリアソンの社員の方にもSOMP0グループで経験を積んでもらうことで、人材育成やキャリア形成の一助となるよう貢献し、両社にとってシナジーが生まれるような取り組みをしたいです。また、SOMP0グループは全国に支社があるので、アウェー戦でのコラボレーションなどを通じて地域への貢献にも取り組んでいきたいです！



SOMP0ホールディングス株式会社
サステナブル経営推進部
課長代理
山中 紗恵子 様

損害保険ジャパン株式会社
DX推進部
パーソナルライングループ
主任
赤尾 颯斗 様

人材交流に興味を持ったきっかけ

今の業務を大切にしたいこともあり応募をためらいましたが、兼業コースの存在やキャリア事業への興味がきっかけとなりました。また、クリアソンの試合で元気や熱量を感じ、これを職場に持ち帰りたいと感じて応募しました。

これまで新卒から入社して損保ジャパンの経験しかなく、また、普段お客さまと直接接点が少ない部署のため、現場を体感することで今の業務や部署に活かせることも多くあると感じて応募しました。

実際に働いてみた気づきや今後への展望

クリアソンを取り巻くステークホルダーの数と多様性に驚きました。クリアソンのために協力し合う力は凄いと感じます。また、ベンチャーのような会社で働くことは今回が初めてでしたが、何かに想いを抱いて取り組む、ということは大企業でもどこでも変わらず重要だと感じました。

SOMP0グループでもクリアソンに触れて、心が動くような経験を多くの社員にしてもらいたいです。

クリアソンの方々は常に前を向いて歩き続けているため、多少業務が大変だったとしても前向きに取り組むことができ、仕事への向き合い方において学ぶことが多くあります。また、お客様と直接会話できることが貴重であり、現場からの学びを本業にも生かしていきたいと考えています。

5 新宿全体での地域活性化

2024シーズンサマリー

地元住民や地域の子どもたち向けのイベントに参加するとともに、クリアソン新宿の試合により、「人」と「街」をつなぎ、豊かさを創り出しています。新宿区とは包括連携協定に基づき、スポーツ振興以外にも多面的な連携を行っています。

また、今年から法人パートナーの経営者の皆さまと共に育み、学んでいくコミュニティ「クリアソン新塾」を始めました。クリアソン新宿がハブになり、ベンチャー企業から大企業まで様々な人を巻き込み、地域活性化の力に繋がっていきます。

WEB <https://criacao.co.jp/soccerclub/event-report/post-21104/>



新宿区

実施活動インパクトの例

町会・商店会へのイベント参加

開催回数

36回

参加者総計

約 3,660人

企業とのイベント実施

開催回数

10回

参加者総計

約 1,580人

行政へのイベント参加

開催回数

8回

参加者総計

約 360人

5 新宿全体での地域活性化

活動

1



2



3



直接の結果～短期アウトカム

- 地域住民の試合観戦・イベントへ参加する機会を提供する
- クリアソン新宿に愛着が生まれる、ファンになる
- ファンが地元企業や商店街の情報をクリアソン新宿を介して得る

- パートナーの商品・サービスが、他のパートナーやファンに認知される、認知度が向上する
- クリアソン新宿に関わるパートナー企業やその経営者同士の繋がり、新たな取組みが生まれ、価値が創出される

- 商店街や企業がクリアソン新宿と連携したイベントを実施、または商店街や企業が主催するイベントへクリアソン新宿が参加する
- イベント参加者がパートナー企業や新宿の商店街の商品・サービスに関心を持つようになる

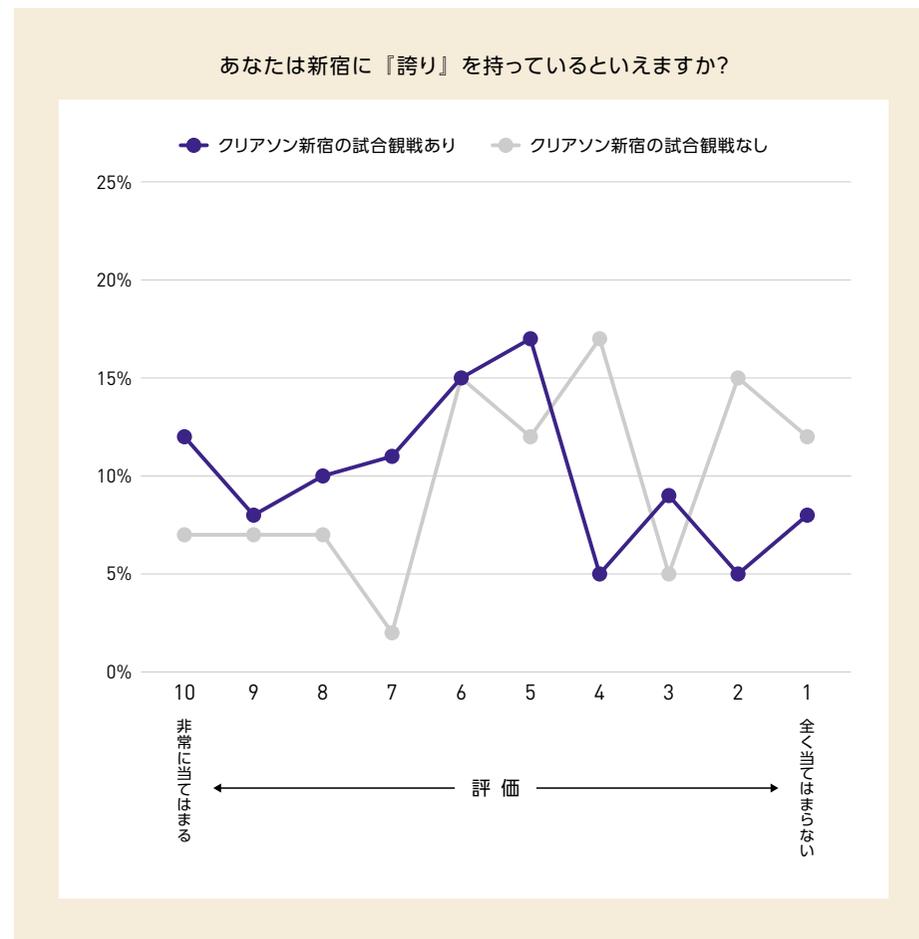
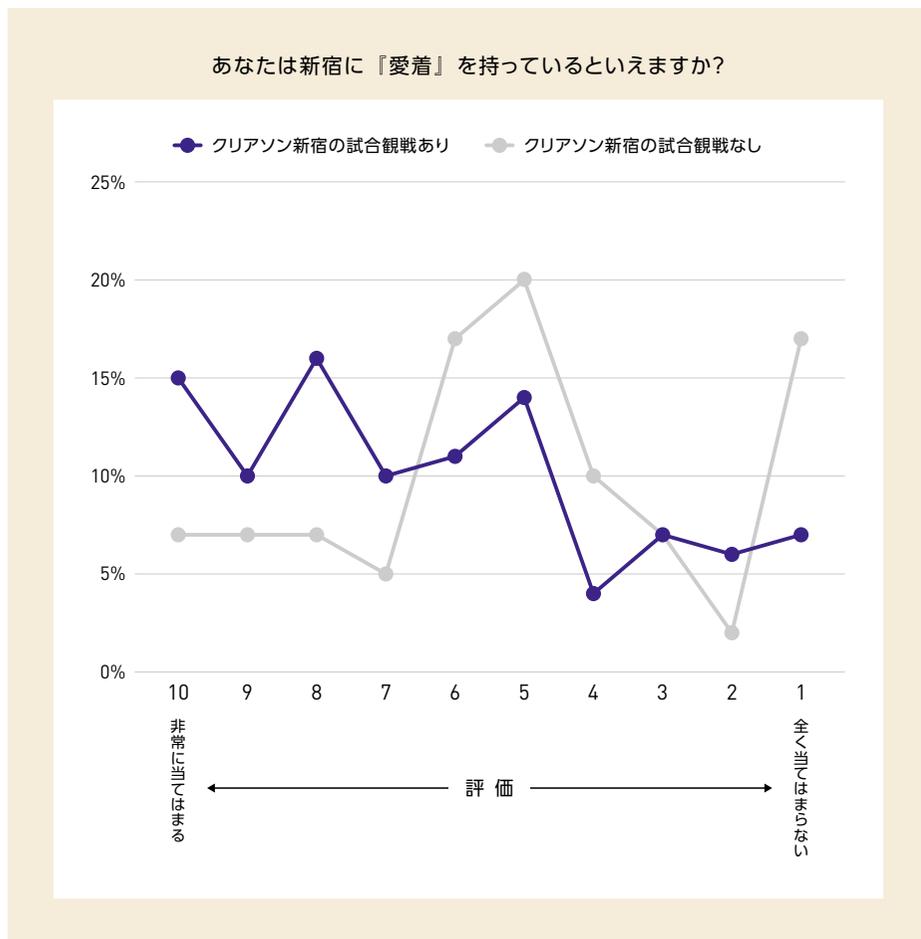
中期～長期アウトカム

新宿への愛着や関心が高まり、
新宿に居住する人や
新宿で経済活動を行う人が
増える

経営者同士の繋がりが
深くなり、
それが組織としての
成長へと繋がる

5 新宿全体での地域活性化

『クリアソン新宿の試合観戦がある人は、ない人比べてシビック・プライド[※]が高い』



※ シビックプライド (Civic Pride) は、地域や自治体に対する住民の誇りや愛着、そして地域社会に貢献する意識を指す言葉である。

※ 2022年12月に実施した、クリアソン新宿ソーシャルキャピタル・シビックプライド調査において、160名にアンケート調査を実施した結果を一部抜粋

6 全ての人の開かれた安心・安全なくらし

2024シーズンサマリー

新宿グローバルカップや外国人留学生の招待、日本語学校との連携を通じ、多文化の人々が交流する機会を提供してきました。また、歌舞伎町での清掃活動を通じて地域住民との日常的な交流を深め、地域での取り組みに対する理解促進に努めています。

実施活動インパクトの例

外国人留学生関連

日本語学校留学生ご招待人数

654人 (2回計)

日本語学校フットサル交流会

68人 (2回計)

6 全ての人に開かれた安心・安全なくらし

活動

1



- 新宿グローバルカップの開催
- 外国人留学生の招待
- 日本語学校との連携
- 歌舞伎町清掃活動 など



直接の結果～短期アウトカム

- 多様な人々が交流する機会を提供する（日本語学校留学生ご招待人数：654人、日本語学校フットサル交流会：68人）
- 地域に住む多様な人々と知り合いになる



中期～長期アウトカム

日常的な交流が増加し、
多様な人々の考え方などへの
理解が深まる

7 高齢者の健康増進と地域で支える仕組みづくり

2024シーズンサマリー

高齢者施設への訪問やウォーキングサッカー、サッカーボウリングを実施し、高齢者の健康増進を支援してきました。定期的に訪問している施設が6か所に増え、以下の施設を訪問することができました。(戸山シニア活動館、西新宿シニア活動館、有料老人ホームソナーレ目白御留山、グループホーム あんじゅうむ大久保、介護付き有料老人ホーム グランヴィ 神楽坂、特別養護老人ホーム 原町ホーム)

また、試合招待イベントを通じて地域との交流を深め、多様な社会参加を促進するとともに、地域で支え合う仕組みづくりを目指しています。

実施活動インパクトの例

高齢者へのプログラム

実施回数

35回

参加者総計

約470人

WEB

<https://criacao.co.jp/soccerclub/event-report/post-19454/>

WEB

<https://criacao.co.jp/soccerclub/information/post-18992/>

7 高齢者の健康増進と地域で支える仕組みづくり

活動

1



2



直接の結果～短期アウトカム

- 高齢者に対し運動プログラムへ参加する機会を提供する（高齢者へのプログラム実施回数：35回、参加者総計：約470人）
- クリアソン新宿の選手に興味を持つ、ファンになる

- 高齢者に対し、試合観戦・イベントへ参加する、交流する機会を提供する
- 地域に知り合いが増える

中期～長期アウトカム

高齢者の生きがい、健康増進



CHAPTER

04

クリアソン新宿が
今後注力する Impact

2024年度の振り返りと 2025年度の展望

今回、クリアソン新宿として初めてのインパクトレポートを作成しました。

弊社が掲げる「スポーツの価値を通じて、様々な世界をつなげ、誰もが豊かさの体現者となれる世界に。」というビジョンを達成するため、今回策定した価値創造ストーリーや7つの課題・ロジックモデルは、重要な要素となっています。

本レポートでは、クリアソン新宿が解決を目指す課題や、活動もたらす価値・インパクトを体系的にまとめるとともに、パートナー企業の社員や関わる学生へのインタビューを実施しました。クリアソン新宿の活動内容について、より多くの皆さまにご理解いただければ幸いです。

2025シーズンでは、新たに以下の4つの取り組みを推進していきます。

- 「サッカー」に限らず、「子ども」の課題解決に取り組む部署を創設し、子どもの運動環境や教育価値への提供をシャープにすること
- クリアソン新宿がハブとなり、他の団体や人々を巻き込みながら、持続可能な活動基盤を構築するため、新たなボランティア組織を立ち上げること
- HRBP*事業部を創設し、社内外へのHR・人材育成事業を体系的に提供できる会社になること
- 学生、ビジネスパーソン、アスリートがつながるリーダーシップコミュニティを形成すること

今後も、クリアソン新宿の活動や非財務的な価値を定量化して提示することで、「世界一のサッカークラブとなり、サッカーを通して豊かな社会を実現する」というビジョンに共感する仲間を増やしていきたいと考えています。

最後に、本レポートの作成にあたり、多大なご協力をいただいたパートナー企業であるKPMGジャパンの皆さまに、心より感謝申し上げます。

※HRBP…「Human Resource Business Partner」の略称。組織の成長を促す戦略人事のプロ集団。





CRIACAO SHINJUKU

Appendix クラブ概要

チーム名	Criacao Shinjuku (クリアソン新宿)	新宿区サッカー協会代表チーム チーム理念：サッカーを通じて、世の中に感動を創造し続ける存在でありたい
所属カテゴリ	JFL (日本フットボールリーグ)	都心クラブとしてJリーグに最も近い立ち位置 2024シーズン：14位 2023シーズン：11位 2022シーズン：15位
ホームタウン	新宿区	2020年11月に新宿区と包括連携協定を締結 2023年9月に都心クラブ初のJリーグライセンスを取得 *練習会場：落合中央公園 (新宿区上落合) *試合会場：国立競技場 (新宿区霞ヶ丘町)、区外スタジアム (西が丘等)
運営会社	株式会社Criacao	創業 2013年 本社 新宿区新宿1丁目 (新宿御苑前駅徒歩1分) 資本金/年商 950万円 / 7.5億円 (2024年10月期) 社員数 60名 (うち社員兼選手28名)





CRIACAO SHINJUKU

**Enrich
the
world.**